

グローバル共生社会論

授業科目名	グローバル共生社会論	単位数 2 単位
英語標記	Introduction to Theory of Global Coexistence	
授業コード	360200	
受講人数	30 人	
担当教員	池田 光穂、思 沁夫、常田 夕美子、三田 貴、林田 雅至、宮原 暁	
対象	全研究科大学院生、社会人（10 名程度）	
開講時間等	第 1 学期＝月曜 7 限	
開講場所	吹田キャンパス：人間科学部 32 講義室	
キーワード	グローバル化、共生、多様性、実践、エスニック・マイノリティ、ジェンダー、セクシュアリティ	
授業の目的	1. グローバル化に対して日本社会がいかなる対応をしているかについて学ぶ。 2. 現代日本におけるエスニック・マイノリティの多様性について学ぶ。 3. ジェンダー・セクシュアリティの多元性と共生社会の可能性について学ぶ。	
講義内容	本授業では 4 つの単元から構成されます。各単元は、グローバル共生に関する基礎的な知見や議論の枠組みを示すものですが、それぞれの単元の要素は、単元の領域を超えて相互に関連しています。単元 I では、グローバル化に対して日本社会がどのような共生に向けての対応をしているかについて司法、医療、教育、行政の現場を中心に考察します。単元 II では、従来の日本単一民族論に対して、現代日本における多様なエスニック・グループの存在に注目し、その共生のありかたについて考えます。単元 III では、ジェンダーとセクシュアリティの多元性が共生的な社会関係を築くためにいかなる可能性を提供しているかについて検討します。単元 IV では、それまで学んできたことを受講者が自ら発表（プレゼン）することを実修します。	
教科書	ありません。基本参考書を参照してください。	
参考書	基本参考書として、韓敬九・桑山敬己編『グローバル化時代をいかに生きるか：国際理解のためのレッスン』平凡社、2008 年（ISBN 978-4-582-83375-1）があります（平成 21 年度の教科書）。それ以外の文献はウェブページでの紹介ならびに授業単元ごとに指定します。	
成績評価	8 割以上の出席をした受講生に最終試験（レポート）を提出する権利があります。出席の中には単元 IV でおこなうレポート作成にむけての事前発表会でのプレゼンテーションが含まれます。成績はレポートと出席点により判断し、それらの評価配分はレポート 7 割、出席点 3 割です。	
履修条件・受講条件	この授業を履修する大学院生に対しては、現在運用されている大学院高度副プログラム「グローバル共生」（提案部局：グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)）基礎科目（必修）6 単位のうち 2 単位が認められます。	
その他	本授業は「コミュニケーションデザイン」ならびに「グローバル共生」という高度副プログラムの科目のひとつです。「コミュニケーションデザイン」に関しては本シラバスの該当ページを、「グローバル共生」に関しては全学の高度副プログラムの案内を参照してください。 高度副プログラムへの出願は所属研究科を通しておこなう必要もありますので研究科の履修手続きに注意してください。 教科書をつかった話題の提供や最新資料の提示、メディア報道の批判的読解、ケースにもとづくグループ討論、問題にもとづく学習（Problem-Based Learning）、e-learning やウェブ CT などを使って授業を立体的に構成します。	

授業には表記の CSDC 教員のほかにグローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）教員（石井正子、常田夕美子、宮原暁）などが担当します。

1. オリエンテーション

単元 I：グローバル化と現代日本社会

2. 多元化する日本社会
3. 現代日本の多文化・多言語情況
4. 在日米軍：「強力な」マイノリティ

単元 II：日本におけるエスニック・マイノリティの多様性

5. 日本における先住民問題
6. 日本における差別問題
7. 日本における外国人労働者問題

単元 III：ジェンダーとセクシュアリティの多元性

8. ジェンダーと多文化主義
9. 日本における親密圏の多様性
10. セクシュアリティの多様性

単元 IV：学生によるレポート作成に向けての発表

11. 学生発表（その 1）
12. 学生発表（その 2）
13. 学生発表（その 3）
14. 学生発表（その 4）
15. 個人指導・個人面談